

II 過程評価

- 1.利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供
 (3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供

第17回 事業所評価

トータル	タイトル	項目番号	項目	出来 てい	ほほ 出来	出来 てい	全く 出来	コメント	改善策	運営推進委員様からのアドバイス
①	看護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を生かした役割分担が行われている	5	10	1	0	役割分担は行われており生かしていると思うが看護職の介護業務の負担が大きい。 朝礼でそれぞれの立場からの意見交換が出来る 生活面をチームワークで支えることは出来ているが専門性を生かした役割分担は課題がある。 日々、話し合い共有し、それぞれの専門性で提供している 日中、利用者にとって気になる所など、その都度話をし場合によっては連絡ノート等へ記入し共有している。 問題が発生するごとに検討され改善できているが当日のリーダーの情報共有が伝達できていないことがある 伝達はしているが、誰も手をつけてなかったということが気になる。(担当者が決まっていなくてそのままになる) 多職種連携で円滑にすすめるために共通の目標を持ち、積極的なコミュニケーションを図りたい	☆看護師が朝礼のフロアの見守りに配置されることがあるが、確実に朝礼に参加できるように見守り担当から外す。☆リハビリの担当も看護師中心になることが多いが介護職でも可能なので全職種で担当していく。☆情報伝達漏れは、業務連絡帳の記載漏れによるものが多いので全員に伝えなければならないことは些細なことでも連絡帳にきっちり記載していく。	
②	看護職によるサービス提供に関する指導・助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から指導・助言が行われている	3	11	2	0	様々な疾患を持った方がおられ、退院後の方もあり、看護職の方から指導・助言が行われている。 定期的に朝礼で共有・指導している。 予防に対する指導・助言を受ける機会は少ない 勉強会を開催している。すぐ相談できる環境がある。 定期的に勉強会が行われたり業務の中でもアドバイスを沢山頂いている。 病状の予測をたてていますが、まだ正直全員の病状の把握が出来ていない所があります。 現場が介護中心となっているため看護面の意見は汲み取りにくくなっている。 新しい職員が増えて、個々の理解がどこまで進んでいるのか把握していく必要がある 勉強会で学ぶ機会と現場で学ぶ機会があればいい	☆疾病に対する予防策は勉強会を開催して指導・助言を受ける機会を持つ☆勉強会は、新人向けなど対象者を絞ったものも開催する。またはパソコンなど技術別に絞り込んで参加選択制の勉強会を開催する。(PC勉強会・記録勉強会・見守り方法勉強会など)	
(4)利用者等との情報及び意識の共有										
①	利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴などについての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている。	7	7	2	0	ケアマネージャーより事前の情報提供や説明がしっかりと行われていると思う。 ケアマネージャーよりご自宅での様子を都度説明を聞き対応できている。 その時々状態に合ったサービスが提供できている日々変更している 会議等により「在宅」を基本とすることについての理解は出来ている。 今後は職員の確保と育成後、さらに訪問に力をいれられれば充実していけるのではと考えます。 新規の方が来られる前には朝礼等でしっかりと情報確認を行っている。 利用開始後に何かあってもすぐに情報を共有している 京町小路をご利用になられた利用者様が自宅に戻られたとき上手く橋渡しが出来ようサービスが行えていると思う。 ケアマネージャーより十分な情報提供がなされている。 現場は利用者様サービス開始時に情報を頭に入れて仕事に臨んでいると思う。 ケアマネージャーをはじめ協力して情報提供説明できている。 小規模多機能をより理解して、利用者様によりベストなサービスが提供できるように努めていきます。	現状、ケアマネージャーが新規利用者の事前情報をひとりの対象者に3回は連絡の機会を持っている。それで周知徹底が一定程度図られている。さらに個別の関わり方法もまとめているものがあるため、個々の職員でもさらに読み取り、より情報共有をすすめていく。	